

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局 地方道・環境課
担当課長名：吉崎 収

事業名：地域高規格道路 広島高速道路 一般県道温品二葉の里線	事業区分：地方道	事業主体：広島市
起終点：自：広島市東区温品一丁目 至：広島市東区中山西二丁目	延長：0.8km	
事業概要：広島高速5号線は、本市の都心部と広島県東部地区及び広島空港との間の高速性・定時性の向上や、温品・中山地区をはじめとする一般道路の交通混雑の緩和、広島都市圏のさらなる発展を牽引する広島駅周辺地域の開発促進などの役割を担う路線である。 広島高速5号線は都市高速道路事業（有料道路）と本地方道事業（公共事業）の合併施行により事業を実施している。		
H12年度事業化	H10年度都市計画決定	H13年度用地着手
全体事業費：175億円	事業進捗率：35%	供用済延長：—km
計画交通量	8,000～12,400台/日	
費用対効果分析結果	総費用：(残事業)/事業全体 360/1,025億円 事業費：293/958億円 維持管理費：67/67億円	総便益：(残事業)/事業全体 1,334/1,334億円 走行時間短縮便益：1,098/1,098億円 走行経費減少便益：169/169億円 交通事故減少便益：66/66億円
	B/C：(事業全体) 1.3 (残事業) 3.7	基準年：平成21年
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.8（交通量+10%） B/C=3.6（交通量-10%） 事業費変動：B/C=3.4（事業費+10%） B/C=4.0（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=3.6（事業期間+20%） B/C=3.8（事業期間-20%）		
事業の効果等 ・広島空港や県内各地から広島駅へのアクセス向上等による交通の円滑化 ・市街地再開発、区画整理等のまちづくりとの連携による都市の再生等		
関係する地方公共団体等の意見 ・広島県から国へ整備促進の要望がなされている。		
事業評価監視委員会の意見 ・事業継続を妥当と認める。トンネル建設に伴う周辺地域への影響の検証について早期に結論を出し、住民の理解を得るよう努めること。事業費の大幅な増加など事業の前提が変わる場合は、事業再評価を実施すること。 市長の方針：委員会の意見を受けて、事業継続とした。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・広島駅周辺で若草町地区第一種市街地再開発事業、二葉の里土地区画整理事業等の開発が進められている。トンネル建設に伴う周辺地域への影響について検討している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・用地進捗率89%、工事未着手。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・トンネル関連の追加調査を実施し、トンネル建設に伴う周辺地域への影響を検証していく。		
施設の構造や工法の変更等 ・橋梁下部工において、鋼管ソイルセメント杭などの採用によりコスト縮減を図っている。		
対応方針	事業継続	
対応方針決定の理由	以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、市長等の方針を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。 事業継続にあたっては、事業評価監視委員会の意見を踏まえて進めていく。	
事業概要図		

※ 総費用、総便益とその内訳は、広島高速5号線全体を対象とし、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。